

謹賀新年 2018

昭和 26 年公開の小津安二郎「麦秋 early summer」という映画を NHK BS プレミアムでみた。ぼくの生まれた翌々年にあたる。小学校時代の我が家の暮らしにさえ通じるものがあった共感した。こういう映画がぼくには合う。映画館に足繁く通った涙脆い亡き母もぼくと同じ共感を持って映画館で涙し微笑んだことであろう。小津は明治の生まれゆえ、こういう共感も明治期の人々にもあったろう。古代の人々もか、と思ったりする。表現にはもちろん独特の臭みがあるけど、この臭みを外せば人生でも社会でも無くなるわけだ。麦秋を見つつ老年期にこそ、心の平安を迎えるのであらうと思ってもみた。

太陰太陽暦での最重要日にあたる冬至の前々日、快晴に恵まれたので急遽、藤原宮跡にでかけた。一人、レーザー測距儀で物干し竿を立てて太陽観測を実施した。麦秋ラストシーンの畝傍山を含む大和三山は眺望できたが、いつになく天香具山が美しかった。ぼくと同世代のつれない男性達の数名に声をかけ、ぼくの発見の幾つかを演説したりした。この春に「飛鳥知の発見」（仮題）を出版する。2017.12.23

皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします